平成 23 年度第 7 回新宿区外部評価委員会会議要旨

<開催日>

平成 23 年 12 月 13 日（火）

<場所>

本庁舎 6 階第 3 委員会室

<出席者>

外部評価委員（13 名）

名和田会長、岡本副会長、加藤委員（第 1 部会長）、入江委員、大塚委員、小菅委員、須貝委員、富井委員、中原委員、鍋島委員、芳賀委員、山村委員、渡辺委員

事務局（5 名）

寺田総合政策部長、山崎行政管理課長、大竹主査、担当 2 名

<開会>

【会長】

よろしくお願ひいたします。

まず、総合政策部長の異動があったということですので事務局からご紹介をします。

（総合政策部長紹介）

【会長】

今日は傍聴の方がお一人いらっしゃいます。

本日から経常事業結果の取りまとめを行っていきます。

各部会のご意見は既に取りまとめいただいていると思いますが、この後一旦部会に分かれて、取りまとめた意見を確認いただき、そのうえで各部会から意見を出していただきたいと思いますのでよろしくお願ひします。

部会に分かれる前に事務局から何かございますか。

【事務局】

本日皆様にご提示した取りまとめ案は箇条書きの形式となっておりますが、最終的にはこれを文章の形にまとめ、総論形式で出したいと思っております。よろしくお願ひします。

【会長】

ありがとうございます。何かご質問ありますか。

それでは、部会に分かれて意見交換をしていただきたいと思います。

自分の部会の意見の確認に加えて、他の部会の意見について、賛成、反対意見等も出していきたいと思ひます。特に、反対の意見については調整が必要になる部分もあるかと思ひますので、必ずチェックをしていただきたいと思います。

(部会を開催)

【会長】

では全体会を再開します。

まず、各部会の議論の内容について、部会長から概略の報告をしていただきます。その後、各委員から評価の対象、評価の視点、評価項目、フォーマットなど、経常事業評価全般の考え方についてご意見をいただきます。

それでは最初に私の第3部会の意見を申し上げます。

大きく4つほど議論しました。

まず第1点目は、評価のトーンとして、いわゆる「べき論」で記載すべきではないということ。今回は主管課も我々も試行であり、長年続いている経常事業を評価するに足る資料等の提示もない中で、「べき論」を出せるほど十分な検証は出来ていないということがございます。

「～と考える」程度のトーンがいいのではないかと提案します。

それから、2番目に「総合評価」欄について、第3部会は特に意見を出していませんが、これはこの欄が不要とかこのままで良いということではなく、総合評価の前提となる4つの視点とその内容が今回の内部評価ではまとめきれていなかったもので、まずそちらが固まったうえで、この欄に事業全体の評価を記載していただきたいということです。

それから、第3番目ですが、各部会から追加すべき評価項目がいろいろと出されていますが、これを全てフォーマットに組み込むのはあまり現実的では無いため、取捨選択や、他の欄との統合などをしていく必要があるということです。

それから、いろんな性質の事業があるわけで、必ずしも書けない項目が出てくる事業もあるかもしれない。もう少し事業を、大まかまりにして欄をつくるとか、そういった工夫が必要ではないかということをお話しました。

大まかには以上です。

では続いて第2部会、宜しく申し上げます。

【部会長】

第2部会では法定受託事務について評価を行いました。区単独で変えられる部分が少ない印象があり、評価対象としての優先順位は低いとの意見がございました。昨年の我々の答申では「評価対象とすべし」としましたし、「評価対象から外すべき」とまでは言いませんが、変える余地の多い単独自治事務を優先してやるべきではないかということです。

先ほど第3部会から出された「べき論」についてですが、第2部会ではこれまでの計画事業評価に出来るだけ沿った形で、事業を一つ一つ見ながら評価を行ったため、論調としてこれまでのものと近い形になったと思っております。

他の部会と少し意見の違う部分としましては、「職員」の欄について、他の部会では職員給与の平均から導出される人件費を書いてはどうかのご意見がございました。各職場によって必要とされる職員の資質や経験年数は違うものと考えられるため、導出される給与額は参考値にしかならないなかで、それを使って評価を行うのは難しいのではないかと。現在の人数程度の記

載で問題ないのではないかという意見もございました。

他の部会と同様の意見としましては、指標の設定について、可能な事業は設定すべきではないかということ。ただし、これは経常事業評価を継続的に行っていくことが前提です。4年間で全部を評価して、その後は未定となるとどうなのかという部分があります。事業の目的に対して目標があるのは当然ですが、評価のために、それも今後も継続して評価していくのかわからないものに対して、どこまで用意しろと言えるのか難しい。

ただ、できるのならば、指標は必要だろうと思っております。

それから、予算事業が一つしかない事業については、予算事業シートは必要ないだろうということがございました。

それから、外部評価のやり方として、例えば「この事業の予算は削ったほうがいい」や「優先順位が高い低い」などの意見を出すことは難しい印象がありました。

大まかには以上です。

何か部会員の方から補足がございましたらどうぞ。

【委員】

経常事業評価を行うのに際して「目的の達成度」について、重要な視点であることは間違いないのですが、指標の設定が難しい。つまり客観的な評価が難しい事業については、「適、不適」といった判断をすることも難しいと方向づけられるかという議論がございました。

【会長】

ありがとうございます。他はよろしいですか。

では続いて第1部会よろしくお願ひします。

【部会長】

大きく3つ議論がございました。

1点目ですが、経常事業評価においては「関連事業との関係性」が重要だろうと考えました。関連事業や、体系の中での事業の位置づけなどの前提を踏まえて評価する必要があるため、内部評価はそれを明確にする必要があるという趣旨です。

2点目ですが、第2部会と同様「目的の達成度」についてです。

やはり数値だけでなかなか評価しにくいという面があるという議論です。例えば、違法駐輪の数などは、駅前だけならばある程度把握できても区全域では測れない、そういった目に見えないものをどのように評価していくのかという議論がございました。

3点目としては、第1部会で評価した建築確認事業は、人件費がないため、事業収入が事業費を大幅に上回っており、大変な利益が上がっているように見えてしまっていました。そういった課題からも、参考値であっても人件費を出すべきではないかという意見です。

以上です。部会員の方から補足をお願いします。

【会長】

よろしいですか。

では各部会からのご意見が出そろったので全体での議論を行いたいと思います。

まずは今の報告を受けて、何かご意見ございましたらどうぞ。

【部会長】

総論形式でまとめるとのお話が先ほどございましたが、各部会長から報告があった以外にも多くの個別意見がございました。そちらの扱いはどのようになりますでしょうか。

【事務局】

私どもとしては、外部評価委員会の総論としてまとめていきたいと思っておりますので、個別意見という形の載せ方は避けたいと思っています。

【部会長】

ただ、検討した事業の性質が違うために、どうしてもそれぞれの部会で異なる見解になる部分がございますよね。経常事業の性格によって見方が変わってくるという部分があると思います。その辺はいかがでしょう。

【事務局】

確かに今のご議論聞いていても、そのように感じますが、一方では内部評価は、全職員に対して、統一の基準で書かせませんと、ケースごとにとというのは、なかなか難しいと思います。今日のところは課題として持ち帰らせていただきます。

【部会長】

わかりました。

【会長】

では他にご意見はございますか。

【委員】

主管課が書き分けられていないこともあるかと思いますが、記載が重複している項目が多く見られたように思います。例えば、「執行方法・費用対効果の点検」と「効果的・効率的」や、「実績・成果の分析」と「目的の達成度」などはそもそも重複している部分が多いと思います。出来るだけコンパクトな評価書フォーマットを作成するために、この辺りをまとめられないか議論する必要があるのではないのでしょうか。

それから、「手段の妥当性」は「サービスの負担と担い手」にすべきとの議論をこれまでもしてきましたが、それでよろしいかということ。

【会長】

ありがとうございます。

まず評価項目については、追加してほしい、追加すべき項目の議論がある一方で、各所管課が目回さないようなフォーマットにまとめないといけない。適切なまとめ方を模索する必要があるだろうということですね。

それから今の「サービスの負担と担い手」をはじめとして、4つの視点については一番難しいところだと思いますので、そこは委員会としてももう少し議論が必要かと思います。

ではこちらについても含めて他にご意見はいかがでしょうか。

【委員】

「サービスの負担と担い手」という項目名については全ての部会から意見が出されていますのでそれにすべきだと思います。

それから、内部評価の記載は基本的に「区民にとってどうなのか」を書いていただきたい。例えば駐輪場などは区民外が多く利用する施設ですが、区民にはどのように活用されているのか、区民の暮らしに役立っているかという視点を忘れてはいけないと思います。

【会長】

ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。

【委員】

今回の内部評価の問題として、記載内容の重複が多いというフォーマットの問題と、主管課がしっかり書き方をわかっていないという問題とがあるので、それぞれに整理しながら検討する必要があります。

例えば「事業目的・概要」などは、施策全体から見ての事業の位置づけを書くようにすればいい。書き方の問題でしょう。

それから、項目を統合しようとする、どの項目に入れればいいのかという検討が必要になります。たとえば「協働の視点」をどの項目で見るか考えると「効果的・効率的」なのか「サービスの負担と担い手」なのかを論じないと、いろんなところで「協働の視点」について書いたら、結局同じ内容が書かれることになってしまうと思います。

それから、全ての部会で特に意見の出ていない項目については、意見が無いから要らないというわけではないということを一言申し上げたいと思います。

【委員】

財源については区民の関心の高い項目だと思いますが、現在のフォーマットでは読んでもなんのことかわからないと思います。内訳や用途、一般財源投入率が高い場合その理由などを記載することで、区民にも理解しやすい形にすることが求められると思います。

【会長】

どれくらいになれば一般財源率が高いといえるのかは法律との絡みもあるでしょうから難しい部分かもしれませんね。

今のご意見で非常に大事だと思ったのは、区民の関心が高い項目について、説得的な書き方をさせていただく必要があるという部分です。ですから、適切な書き方の出来るフォーマットを整え、所管課に対し事務局がしっかり説明と指導をしなければいけないと思います。

これまでの議論を少しまとめますと、まず「協働の視点」について先程少しございましたが、協働の視点は必ずしも全ての事業に当てはまるものではないけれど、協働の視点が重要であるような事業については、きちんと評価できるようにしてまとめる必要があると思います。

それから、施策などのより大きな枠組みの中での事業の位置づけや他の事業との関連がわからないと、我々外部評価委員会としては評価しづらいという意見については、新たな項目を設ける必要があるか主管課の書き方次第なのかは少し考えないといけないでしょうか。

それから、4つの視点については、経常事業の特殊性も考慮しながら再編成しないといけな

い。ここは主管課の書き方もフォーマットも少し工夫をする必要があると受けとめました。
他にご意見はいかがでしょうか。

【委員】

フォーマットについては事業の開始年は必ず追加してほしいと思います。

経常事業がマンネリ化して、同じ事業を同じように同じ金額で、何も疑問を抱かず継続するようなことの無いよう、いつから事業を始めているのかを考える必要があるでしょう。

それから、特定財源の内訳はわかるようにしてほしいと思います。

それから、類似した事業が無いかについては、課内だけでなく他課にわたってしっかりと把握出来る様な仕組みを考えてほしいと思います。

【会長】

ありがとうございます。

事務局からは何かありませんか。

【事務局】

例えば「サービスの負担と担い手」の考え方についてですが、サービスの負担とは何なのかを考えると、大きく3つぐらいになると思います。

1つは税金の使い方、1つは受益者負担、1つは補助金や基金です。この整理でそれぞれについて明記させる必要があると考えております。

次に、サービスの担い手を考えると、区の職員なのか、民間なのか、民間であるならば委託なのか、指定管理者なのか、PFIなのか、民営化なのか、協働なのか、ボランティアなのか、いろんな担い手があります。

これはあくまでも例ですが、各評価項目にこういった考え方を整理していかないといけないと思います。そこをどう整理するかが課題だと思っています。

それから、事業の全体の中から見ただけの位置づけも確かに必要かと思いますが、この事業をどう見直すかという、見直しの視点が大事だと思っています。

そういう意味では、「目的の達成度」を測るのではなく「実績」を何とか評価できないか、もしくは書かせることはできないか、そういう視点でフォーマットをつくっていけないかと考えております。そういう視点で項目の整理をしてみたいと考えているところでございます。

【会長】

ありがとうございます。

概ね我々の意見とかみ合っている印象でしたので、フォーマットの作成と書き分けの整理や主管課への説明方法を並行してやっていって頂きたいと思います。

それらについてのご意見などあれば出していただきたいと思いますがいかがでしょうか。

他のご意見についても結構です。

【委員】

指標の設定の仕方についてはいかがでしょうか。杖と補聴器の事業など、事業対象者を正確に把握することが難しい事業などの母数の捉え方と絡めてご意見をお聞きしたい。

【事務局】

おっしゃるとおり、区内に杖や補聴器が必要な人が実際に何人いるのかということは、どうやってもわからないだろうと思います。

成果を数字的に測ることが難しいものについては、ある程度ご了承をいただかなくてはいけない、無理矢理に数字をこじつけて評価すべきではないと考えております。

勿論、主管課が出せませんといったものに対し「こうすれば指標がつくれるのではないか」、「こんな指標はいかがか」というご意見をいただくことは出来ると思います。

ですが、職員が考えても母数が出せない施策もかなりあります。そういうものもあることは、ご理解いただきたいというところでございます。

【委員】

わかりました。

【委員】

今の点についてですが、確かに行政内部事務など、指標が明確になりやすく、あまり達成度について評価することに馴染まない事業もあると思いますが、そういったものについては、個別目標のようなレベルから評価していくことが大事ではないかと認識しております。

【会長】

なるほど。他にもどうぞ。

【部会長】

第1部会のご意見に、「以前計画事業だったものについては、その時の指標が使えるのではないか」とありますが、これはその通りだと思いますね。

むしろ何故経常事業になったら、それまであった目標が無くなるのか不思議な感じがします。

【事務局】

ご指摘のとおり指標を設定することが出来る事業はおそらくたくさんあると思います。

しかし、指標というのは継続して評価を行う上では重要ですが、今この時点で見直しをするためには、むしろ現在の実績をどのように検証すべきかが重要だと考えております。

【委員】

指標が設定されれば、計画事業と同様に各評価項目についてマル・バツ式で評価することが出来ると思いますが、仮にそれが全部マルになればその事業を続けてもいいとは思えないと思います。

事業の見直しを行うということは、必ず不利益をこうむる方がいらっしゃる。快適度、満足度が下がることになると思いますから、絶対にやめた方がいいという事業はないわけですね。

そういったところに、どうやって踏み込んでいくのかを考えると、これまでの指標というよりは、例えば「課内での事業の優先順位」などの基準や指標が必要になってくるのではないかと思います。

【事務局】

優先順位というのはいろんな尺度があり、一律的にはなかなか難しいだろうと考えています。

また、評価の段階では、事業の方向性や考え方を出すことはできても具体的に、「この事業については廃止します」や「受益者負担を何割にします」というところまで記載することはできないと思っています。内部評価をする段階では、政策的に確定をしているわけではありませんで、方向性は示せるとしても、細かいことまで出せということは現実的に難しい。

そのあと議会に予算案を提出し、それに対して議論をいただくまで、決まってくるのではないかと考えております。

【委員】

そうすると、何のためにやるのかわからないですね。

財政的な問題、どんどん区の収入が減って福祉予算は増えていくことは間違いない中で、経常事業をどのように、極端に言えば減らしていくかという、そういうことかと思えます。

そうすると、評価の視点も必然的に変わってくるものだと思います。

自分の課の中で事業の優先順位は付けられないといけないのではないかと。

例えば事業費を一割カットと言われたらどこから切っていくのか、どのように切っていくのかを考えられる評価にしなければ意味がないと思うのですが。

【事務局】

おっしゃっている意味は、本当によくわかりますが、すごく難しい問題ですね。

【委員】

優先順位ということになると、全経常事業について、何らかのフィルターをかけなければ、正確なというか、客観性のある順位というのは付け難いのではないのでしょうか。

【委員】

例えば優先順位を1から100まで付けるなんて言うのは、最初に全部を見なくては行けない。ボリューム的なこともあり、難しいと思います。

ただ、その事業が区財政に赤字を出してまでやる必要のある事業なのか、それをマルやバツで表すことは出来るのではないのでしょうか。例えば23区のうちで何区がやっている事業なのかとか、客観的な指標を設定して主管課に判断してもらおう。もちろん新宿区特有で必要な事業というものもあると思いますが、そういった基準を設定すれば判断もしやすくなると思います。

【委員】

区が1番に始める良い施策もあるはずなので、その辺りを勘案する必要はありますね。

【委員】

はい。他区でやっていなければやらなくていいということではありません。

【会長】

これまでのご議論で、優先順位という発想の評価への気持ちが非常に強いなと感じました。事務局にもこれを受け止めて検討いただきたいと思います。

そろそろ本日の議論をまとめる必要がありますが、その前に何かございますか。

【委員】

外部評価の対象については、区民が協働に関わって、実際に影響がある事業をやってほしい

と思います。

【会長】

ありがとうございます。

事務局からはいかがでしょうか。

【事務局】

次回までに事務局と学識委員の方とで検討を行い、外部評価の取りまとめ案をご提示しますのでよろしくお願ひします。

それから、外部評価委員会5年間の総括についても次回から取りまとめに入っていたきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

【委員】

取りまとめに際しては、昨年度の答申を十分に踏まえたうえでお書きいただきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

【委員】

職員給与を載せるか否かについては結論が出ていないので、そちらの判断でどちらかを切るのではなく、両方をのせていただきたい。

【会長】

公式文書の整合性については行政が得意とするところなので、この辺は大丈夫だと思ひます。他にはいかがですか。

【委員】

外部評価案では「上位計画」とか「より大きな枠組み」という言い方をしていますが、こういったものを内部評価に添付するということは可能なのでしょうか。

【事務局】

個別の計画はかなりたくさんあります。

障害者もあれば、男女共同参画もあれば、ライフ・アンド・バランスもあればという具合に、法定のもの、そうでないもの、いろんな計画を新宿区は作っています。ですから、それをつまびらかにするとすると、各計画の冊子を読んでもくださいという話になってしまいます。

事業の位置づけというのは、確かに上位計画を見ていただかなければしょうがないのですが、それをフォーマットに落とすのは、正直言って無理だと思ひます。

【会長】

少なくとも杖を配るとか、被服貸与するとか、そういうある意味細々とした事業が、いかなる意味を持つのかを知るためには、もっと上位の大きな枠組みの中で、どういう位置づけになっているのかということ、多少言ってもらわないと、意味がわからないので、事業の意味合いがわかるようなところまでは言ってもらいたいと思ひます。

他にはよろしいでしょうか。

ありがとうございます。お疲れ様でした。

<閉会>

平成23年度新宿区外部評価委員第1部会会議要旨

<出席者>

外部評価委員（5名）

加藤部会長、大塚委員、須貝委員、芳賀委員、渡辺委員

事務局（1名）

担当1名

<開会>

1 経常事業評価について（取りまとめ）

【部会長】

第1部会を始めます。

事務局が取りまとめた第1部会の取りまとめ案を確認しつつ、他の部会の意見との突合せを行っていこうと思います。よろしくお願いします。

まず事務局から何かございますか。

【事務局】

各個別事業に対していただいたご意見を一般的な形に修正して記載しておりますので、ニュアンスなどが変わっている部分があればご意見をいただきたいと思います。

全ての部会で共通しているご意見についてはそれで問題ないと思いますので、方向性の違う、又は賛同し難い部分についてご意見をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

【部会長】

概ね同様の意見が多いように見えますが、職員人件費について記載すべしとしているのは第1部会だけです。

【委員】

人件費を記載したらどうかというのは、建築許可確認等事務で、一般財源と比べて結構特財が入っており、このフォーマットでは収益が上がっているという印象を与えているのです。ところが、実際こういう審査業務とか、検査をやるためにはかなりの人手を要するわけです。当然多大なコストがかかっているのに、形の上では、何か収益が上がっているような形になって、これはおかしいという観点から、こういうことを申し上げました。おそらく他の部会ではこういった事業を評価対象としていないものと思います。

【部会長】

そうですね。国などからの特財を人件費込みでもらっていると、人件費を除いてしまえばよくわからない姿になってしまいますね。

【委員】

国や都からの補助金についてもそうですが、利用料や使用料を取っている事業について、その金額が適正なのかを測るためには人件費まで入っていないと分かりません。

それから、特財を1つの事業で使っている場合はいいのですが、複数の事業で分けていたり、一つの事業が収納して中で割り振ったりしているものは、それ全体が見えないとわからなくなってしまう。だから、関連事業について、予算も含めて記載をすべきであることは、より強く主張してほしいと思います。

【委員】

今、おっしゃっているのは、関連事業と一体的に評価していかなければいけないということですね。

もちろん、それもすごく大事だと思うのですが、評価するときに、その事業一つだけではなくて、関連事業とどう連携して効果を上げたか、そういう評価の視点も必要かなと思います。

【委員】

そうすると、個別目標の観点から評価することになるかもしれませんね。

【事務局】

そうですね。関連の仕方って、目標から見ていった場合や、対象者から見た場合、やっている内容から見た場合など、いろいろな切り方や見方ができると思うので、何を関連で捉えるかというのは難しい問題ですが、一番わかりやすくして整然と説明がつくのは、目標から見ていくやり方かもしれません。

類似・重複した事業を書いてくださいとだけ所管課に振っても、所管課によって受け止め方が違ってしまいバラバラの回答になってしまいます。どういう見方でピックアップしてもらうかが大事になると思います。

それから、年度毎にテーマを設定してその関連事業を全部評価する手法もあるとは思いますが、4年間で全ての経常事業をやるという中で、テーマ設定を検討する難しさと、一つの所管課が多大な負担を強いられることになることが想定されますので、効率的な評価という面から見ると有効な部分も大きいけれども、物理的に難しい面もあると思います。

【委員】

まあ切りがなくなると思いますね。体系を確認したいのであれば実行計画の巻末の一覧を見たらいいですよ。個別目標に向けた事業の一覧はそれで確認できます。

【委員】

今回はあくまで3つの事業を見ただけなので、区の事業全体を見ていくと作業量は一つのキーワードになってきますよね。

そうすると評価作業の効率化ということも、考えないといけない。

【委員】

誤解があったならば申し訳ないのですが、例えば自転車に関する事業が4つあるならば、一度に4つ評価すべきとっているわけではなく、4つのうちの1つを評価するにしても、関連でどういう事業があって、どのくらいお金を使っているのかを表記してほしいということです。

【委員】

でも、今のフォーマットでは書ききれないですよ。

おっしゃることは賛成ですが、それが書けるフォーマットとなると難しいのではないでしょうか。

【部会長】

そうですね。事務局としてはいかがですか。

【事務局】

現在1つの事業につき2枚のフォーマットを、例えば4枚にするとか拡大していけば当然書けるようになると思いますが、枚数が増えれば当然作る側の負担が大きくなりますので、そのあたりをどのように考えて整理するかという問題がございます。

【部会長】

そうですね。その辺りはこちらも理解したうえで検討していかなければいけませんね。

【事務局】

また、区民の方が見てわかるということ踏まえると、あまり丁寧に作って資料が分厚くなっても結局読みにくくなってしまいますし、突き詰めていけば内部資料全部出すことになると思います。

関連事業とか、体系の位置づけとかの説明があると評価しやすいし、外から見てもわかりやすいというのは当然あるので、事業概要などの書き方を工夫させていただくなどの対応を考えるとよいと思います。

【部会長】

そうですね。あとはいかがでしょうか。

【委員】

実績数や目標数、対象数の捉え方についてですが、例えば自転車駐輪場の整備について、評価書を見てもヒアリングを通して、駅前を整備してあと3,000台収容できるようになれば達成という認識をお持ちの様でしたが、区民からするとそうではないというところがございます。駐輪場は整備されてきているはずなのに、放置自転車が減った印象が無い。

2,000台入る駐輪場作ったから放置自転車が2,000台減ったということにはなっていないと思うのですよね。

ですから、駐輪場が28出来たのが実績で、あと2つで目標達成というのは目的と合わないのではないかと。こういう実績や目標をどのように捉えるかが大事になってくると思います。

母数となる放置自転車の数が把握できれば、去年に比べて何台減ったとか、増えたとかというのが比較できるのですが、放置自転車の正確な数は把握できないですね。登録台数はわかるけれども、放置自転車数はその日によって変わるので正確な数は把握できない。

【委員】

ヒアリングでは3,000台が今の放置自転車の数ですと言っていました。

でもそれは、駅周辺の放置自転車のトータルでしかない。当然駅前だけを考えるならそういうことが出来るのですが、区民感情というのはそうではなくて、数えていない駅周辺以外にも含めた、区全体としてどうなのかを考えていかなければいけない。そこは指摘しておかないと

いけませんよね。

【委員】

事業の成り立ちが恐らく駅周辺から始まっているので、主管課としてはまずは駅周辺というところがあるかもしれませんが、そういうところを見直していく必要があるということですね。

【部会長】

評価について気になるのは、数字で評価しても、本当にそれで効果があったのかよくわからないと思うのです。数字で評価となるとどうしてもアウトプットになってしまうと思うのですがそこはいかがでしょうか。

【委員】

事業目的から捉えていくことになると思います。

この事業は、まず駅周辺の放置自転車の解消に重点が置かれています。ですから、駅周辺の放置自転車の解消状況はどうなのかが成果指標になると思います。

だから、アウトプットとして駐輪場の整備数を記載して、アウトカムとして違法駐輪の減少率や現象数が数値として出せるのではないのでしょうか。

駅周辺についてアウトプットもアウトカムも十分であるならば、次のステップとして、地域を拡大していく。そういう段階的な施策の展開が求められると思います。

そこは、よく整理して記載していかないといけないと思いますけれども。

【部会長】

なるほど。

そろそろ時間ですがよろしいでしょうか。

では全体会に戻しましょう。

平成23年度新宿区外部評価委員会第2部会会議要旨

<出席者>

外部評価委員（5名）

岡本部長、入江委員、小菅委員、富井委員、山村委員

事務局（1名）

担当1名

<開会>

1 経常事業評価について（取りまとめ）

【部会長】

第2部会を開会します。

自分たちの部会の意見を確認しつつ他の部会の意見を見ていきましょう。

法定受託事務は私たちだけがやっているのですよね。

部会によって対象事業の性格もいろいろですから、意見が少しずつ違っているのは当たり前
のところがありますが、委員会として取りまとめる都合もありますので、皆さんからご意見を
伺って全体としてどうするかということにしたいかと思えます。

何かご意見のある方はいらっしゃいますか。

【委員】

まず事務局に質問なのですが、最終的な意見書は委員会として出すのですか。それとも部会
ごとということになるのでしょうか。

【事務局】

委員会全体として取りまとめます。

【部会長】

事業目的については各部会意見が一致していますね。

開始時期などを記載してその背景を記載してほしい。これはいいと思いますね。私たちの言
っている見直しが図られてきたのか不明であるけれども、というあたりですので、これでほぼ
一致しているだろうということです。

【委員】

目的のところでは第3部会が、「区の持っている大きな計画の中での本事業の位置づけを記載
したら」という意見は確かにそうだと思いますね。

【部会長】

第3部会のこの指摘は非常に重要だということですね。大きな計画というのは総合計画のこ
とでしょうか。

【事務局】

これは、例えば「地域防災計画」などの個別の計画になります。第3部会が初動体制の整備

に関する事業を評価した中に出てきたご意見とのこと。全体の中で何を担っているかがわからないと、結局その部分だけ取り出しても評価は難しいというご意見です。

【委員】

個別目標との対照とか対比とかということではないのですね。

【部会長】

そういったものがあればということですよ。

現在のフォーマットでは個別目標は記載されていますが、それとは別に個別の計画の中の位置づけを明確にしてほしいということですね。そういう整理でいいと思います。

手法についてはどうでしょうね。これも部会によって視点が違う気がしますね。

【委員】

受益者負担は第2部会にだけ出てくる言葉ですよ。

【部会長】

そうですね。他の部会は受益者負担を考えるような事業を評価していませんので。

【事務局】

そうですね。他の部会に全くないということはないでしょうが、メインは第2部会と考えてよろしいかと思います。

【部会長】

そういった点からも明らかなように、入れられるものは入れていくという形になるかと思えます。

【委員】

第2部会の2段目の対象人数の把握というのは、事業によって難しい事業もあるだろうね。

【委員】

概数はつかんでいるだろうけれども。

【部会長】

ですからある程度わかればという見解になるでしょう。わかる範囲で、勿論把握する努力は必要になりますが。

財源に関しては、特定財源の内訳を記載してほしい。これは出しましょう。第3部会の書いている名称及び根拠法令の記載なども同じ方向での意見ですね。

【委員】

そうですね。第1部会も指摘している。

【部会長】

これは全部会共通という認識でいいかと思います。

次が事業費、これについては第2部会ではあまり論じていないのですが、他の部会などからご意見出ているようなので、もう少し伺ってから全体で議論しましょう。

予算に関しては、一番気になりましたのは職員数について、他の部会は職員平均給与などを載せる必要があるのではないかとのご意見があるようです。

平均給与を記載しろということは、公務員給与にかかってくると思うのですが、実際の給与というのは年齢などによって違うわけですね。常勤、非常勤職員が何人携わっているかを記載する意味はあると思いますが、平均給与を出すという意味はあるのかなと思うので、第2部会としては現状で良いのではないかと議論がされていた。これは少し方向性が違いますと意見を出していこうと思います。

実績数については、第2部会では対象の人たちにどの程度受給されているかを把握することが重要であるという議論でした。第3部会も概ね共通の意見のようですが、それに加えて目標値も必要ではないかとのことです。これは出せる事業とそうでない事業があると思いますがいかがでしょうか。

【事務局】

第2部会では、どちらかといえば実績をどのように捉え、そこからどのように評価すればいいかをご議論いただきましたが、他の部会は計画事業と同様に指標を設定すべきではないかのご意見の様です。

【委員】

事業実施前にあらかじめ目標となる指標を設定させるということですか。

【事務局】

そういったご意見の様です。

【委員】

例えば経常事業を評価する前に、評価対象の事業をアナウンスした上で、その時点で指標を決めてそれを基に評価を行うということでしょうか。

【部会長】

おそらくですが、評価とか関係なく経常事業も目標や指標を持つべきではないかということではないでしょうか。

【委員】

すべての経常事業をということですか。

【部会長】

全部出来るかわからないけど、出来るものは目標値を設定してみたらどうかということでしょう。

【委員】

後で出てくる達成度を評価するかどうかで、評価するとしたら、指標の設定ができる事業は指標化していくということかね。

【事務局】

事務局では従前からご説明しているとおり、指標の設定は難しいと考えております。

今から指標を設定していただいても、来年度の評価は今年度の事業内容を評価するわけですからあまり意味がないことに加え、今後活用できるかといえば、経常事業については計画事業のような継続評価を予定しているわけではありません。

第2部会でも例えば4年、5年ごとにやるという方針でもあれば、指標をつくっておくと前との対比ができるが、それも不明確な現段階でそこまでやる必要があるのかというご議論がございました。ただ、目的の達成度を評価するのであれば指標が必要ではないのかというご意見も出ておりました。

【部会長】

おそらく「実績・成果の分析」と密接に関わる部分なので、併せて議論致しましょうか。

今回提示されたものだけでは、分析・点検や評価をするうえで十分でないということは全部会共通の認識かと思います。

その改善策として、第2部会では実績などの出し方の工夫を、他の部会は指標の設定をそれぞれ提案してはどうかという状況です。

【委員】

杖の場合には達成度を測れないよね。どこまでがどうやったら事業が達成になるのかなんていうことが出来ない。保養所もそうだよね。

【委員】

法定受託事業は指標を設定してもしようがない部分があると思います。

達成したから事業終了と区が言うわけにはいきませんからね。

【部会長】

そうです。法定受託は動かさないですからね。

しかも我々が評価を行った「児童扶養手当」事業は、単純に指標の設定も難しいと思います。恐らく各部会が受け持った事業の性質によって大きく変わる部分だと思うので、その辺も考えながらすり合わせていくことになると思います。

次に評価欄についてですが、まず第2部会ではこの4つの視点からの評価で事業の「重要度」を測ることは難しいのではないかという議論を行ってきました。第3部会が「計画事業のように適・不適に二分した評価を行うことは難しい」という意見を出していますが、割と似たニュアンスの意見かと思います。ただ、どちらも今後内部評価の記載が充実してくれば、項目によっては出来るだろうという意見です。

それから、内部評価の記載が項目ごとに書き分けられていない、内容の被っている欄が多いという意見がありました。例えば「目的の妥当性」は目的を評価するはずが手段も含めての記載になってしまっている。「ご高齢の方の社会参加促進のために杖を配る」事業なら「社会参加促進」が目的のはずなのに「杖を配る」まで書いてしまっているという具合です。これも全ての部会で共通した意見ですね。

すみません。時間の都合もございますので今まで話した以外の意見を伺ってしまいたいと思います。

まず私ですが、第1部会から出されている「一つの予算事業で構成されている経常事業については、予算事業シートは必要ないのではないか」という意見はその通りだと思いました。

複数の予算事業に分かれていた場合は、それぞれの予算ごとに書いていただきましょうとい

うことになるかと思いますが、一つなら無駄だろうということです。

皆さんのほうから何かありますか。

【委員】

第3部会から出されている「より大きな計画から見た事業の位置づけ」が記載されると、それを見て類似・重複している事業が無いか判断するということができると思いますがいかがでしょう。

【部会長】

何を類似かというのは難しいですが、例えば子ども手当の類似事業を考えると、子育てに関するいろいろな手当を見ていくというイメージになるのでしょうかね。

【事務局】

そのときに例えば手当といっても、子ども手当もあれば障害者の手当もあればいろいろな手当がある。手当に着目すると類似が多くなり過ぎてしまいます。計画毎に集めてみて類似があるかどうかと見るなどの視点まで詰めないで、類似の観点がわからないのです。

【部会長】

それは第2部会としてはどうしますか。

【委員】

事業によるでしょうね。

【委員】

そうなるよね、経常事業そのものの数が多いから。事業を1つずつ拾って仕分けするというのも不可能に近いからね。

【部会長】

少なくとも、1つの部なり課なりの事業を1年で全て評価するなどしないと見えてこないように思いますね。もう時間ですが最後に、いかがでしょう。

【委員】

今年の延長線的に経常事業評価したことで、どの事業を削るかということが判断できるのか、ずっと疑問に思っておりまして、事業の必要性や重要度を、例えば課ごとに順位づけなどするべきではないかと考えております。そういった意見はあまり出ていないですよ。

それは見直す上で必要ないでしょうか。「必要ないものは削る」というだけの視点からであれば、本当に効果がないとかという視点から見ればいいのでしょうかけれども、事業費を削るという意味で言えば、今回のこの評価シートだけでそれが判断できるのか疑問に思ったのですが。

【部会長】

第2部会ではそのように議論しておりますので、今度は他の部会も交えての議論になるかなと思います。

では時間なので全体会に戻しましょう。お疲れ様です。

<閉会>

平成23年度新宿区外部評価委員会第3部会

<出席者>

外部評価委員（3名）

名和田部会長、中原委員、鍋島委員

事務局（1名）

担当1名

<開会>

1 経常事業評価について（取りまとめ）

【部会長】

第3部会を始めます。

我々の部会の意見とぶつかったものがないか、他の部会の意見を確認していきます。

時間の関係もございますので、何か全体として、これを言いたいということはありませんか。

【委員】

指標の設定について、第2部会は特に意見が無いようですが、これは指標の設定は必要ないだろうということなのでしょうか。

【部会長】

第2部会の担当されている福祉分野は割と法律で固まっているものが多いから、指標が一応出ている事業が多かったのではないのでしょうか。

【委員】

そういうことですか、なるほど。

【部会長】

評価している事業の性質が違いますので、全ての部会から同じ意見が出ているということは少ないと思います。意見を出していない委員会がそれに賛同するか反対するかということで議論していくことになると思います。

【事務局】

そうですね。第3部会の意見には、他の部会の意見とぶつかっているものはないと思いますので、あとは他の部会の意見を見て反対意見や疑問などがないかを確認していただければと思います。

【部会長】

そうやってすりあわせをしながら1月に全体をまとめるわけですね。

【委員】

全体的にいえることですが、他の部会の意見は「～すべきである」という記載が目立ちます。個人的にはあまり「べき論」でやるべきでは無いのではないかと感じております。

いずれにせよ、そういった語尾のニュアンスなどは統一する必要があるかと思います。

【委員】

そうですね。書き方として「べき」というほどのことはできないと私も思いました。

【部会長】

今のご意見は、試行中はということですか、それとも経常事業評価はということですか。

【委員】

私は「経常事業評価は」ということです。

経常事業というのはいろいろ歴史があって、いろいろ経過がある。それに対して我々が急に
出てきて、すべきであると、こういうふうに言い切れるだけの内容を指摘しているのかという
ことについて、私流に言えば不安がある。そこまで言うということよりも、一緒に考えるとい
う視点でやっていきたい。

【委員】

そうです。経常事業だから。

【委員】

それだけでなく、経常事業評価は試行であり各フォーマットもまだ試行の段階なのに、「べ
きである」というのはいろんな点で無理と思います。

【部会長】

事務局的にはどうですか。今のご意見については全体でも議論していただこうと思いますが。

【事務局】

個人的には「べき論」ではないという気がしています。

「何々したほうがよい」や「何々と考える」という形でご意見をいただいて、それを受けて、
当方で今後、フォーマットも含めてですけれども、直していくというスタンスでいかせていた
だけだと考えております。

【委員】

考えると、その程度はいいのですが、命令調はちょっと。

【委員】

事務局に対して、フォーマットを考えるときに、「こういうふうこういう項目を入れてく
ださい」という意味で「べき」と言っているところはいいかなと思いますが、内部評価の姿
勢や記載について「べき」というのは、短い期間で、歴史のある経常事業を評価するにはい
かがかなと思う。そういう意味です。

【委員】

私は両方とも不安だから、命令調はおかしいと思います。

【事務局】

今後、外部評価委員会として経常事業をやっていく上でも、余り「べき論」は出すべきでは
ないのではないかということでしょうか。

【委員】

私はそう思います。

それに、例えば第1部会の「効果と責任の明確化のため、民間と行政の役割分担について検証する視点で評価すべきである」という意見等は、こういうふうに言うと自分の方にもはね返ってきて、外部評価も、内部評価に倣ってそうすべきとなるかもしれない。それは不慣れな私には負荷が重いなと思います。

【部会長】

わかりました。今の件は、全体の基調というか、トーンの問題として、全体で議論していただくように提起したいと思います。

他に全体でも構わないし、特定の項目についてでもお気づきの点がありましたらどうぞ。

【事務局】

よろしいでしょうか。

第3部会には受益者負担の考え方の馴染む事業がなかったので、よろしければ他の部会のご意見を参考にしながら、受益者負担についての皆様のお考えをお伺いしたいのですが。

【部会長】

受益者負担、区が上乘せ、横出しをしているところは見たほうが良いという程度に多少議論はしましたね。

【事務局】

第2部会が負担割合などについてご意見を出されています。

第1部会も、「手段の妥当性」で「費用負担について行政が行うべきか、受益者・申請者等が行うべきかの検証を行い、記載すべきである」とのご意見を出されています。

【部会長】

視点としては、受益者負担という視点は、当然内部評価があっても構わないと思います。

我々としても特に異論ないのではないのでしょうか。

【委員】

そうですね。

【部会長】

他にもいかがでしょうか。気になるところはありますか。

【委員】

「総合評価」については全ての部会からあまり意見を出しておりませんが、これは現状のままでもいいということでも、この欄が要らないということでもないですね。

「総合評価」という欄は欄として必要だと考えるけど、今回の試行では総合評価という欄がどうだというまでに至らなかったと思いますがいかがでしょうか。

【部会長】

結局、「総合評価」とは何なのということを考えると、4つの視点とかその他全体のことを踏まえた総合的な意見となってくると思うので、他の欄が決まっていない状態では皆さん何とも言いようがなかったのかなと思いますね。

【委員】

フォーマットとしてはそういう欄があることは当然だろうということで、特段議論はしていないということもあるかと思います。

【部会長】

「総合評価」のところで第3部会の意見が欠けているのは、この欄が必要ないと言っているのではないということは、また全体会でご報告したいと思います。

他にはいかがでしょうか。

【委員】

今回は経常事業評価手法への意見を出すことが主だったかと思いますが、事業そのものへの意見が結構ありますね。これは整理が必要だと思います。

【委員】

事業の内容の仮評価については別途に行っているわけですよ。

【部会長】

そうですね。

他に項目で気になるところなどはどうですか。

【事務局】

よろしいでしょうか。

各部会から追加してほしい項目の話は多く出てきているのですが、仮にこれを全部加えると作る方も読む方も大変になってしまいます。逆に削ってもいい項目などはございませんでしたでしょうか。

【委員】

削るという考え方より、どの欄にどの欄を加えるかという視点がいいのではないのでしょうか。

【委員】

私は「協働の視点」についての項目は起こしてほしい。協働の視点だけではないのです。

【委員】

例えば「サービスの負担と担い手」、今回で言えば「手段の妥当性」ですが、こちらに書いてもらうことも出来るのではないのでしょうか。

【部会長】

確かに全ての部会から追加して補遺項目がたくさん出ていて煩瑣みたいですが、方向性の似た項目を大きくりにまとめることは出来そうですね。

それに、今回試行してみて、性質の違っている事業全部について、全ての項目について記載の出来るフォーマットを作るのは難しそうだと認識しておりますが、煩瑣な意見を抽象的なものにまとめることで、そのような記載できない項目を減らすことにも繋がるかもしれません。

【委員】

その際には記載内容が被らないように、記載要領などで何を書けばいいのかしっかり区別して、主管課に説明する必要がありますね。

【部会長】

そろそろ時間ですので最後に何かあればどうぞ。

【委員】

効果と効率の検証をもっとしっかり行う必要があることは意見として出してほしいと思います。多くの経常事業は、事業を継続していくなかでマンネリになっていて、同じ金額が同じようにずっと何年もついていると思います。

効果と効率の検証は財政をスリムにするためにはやらざるを得ないものだと思うのです。こういう項目がないとやらないと思いますよ。

【事務局】

確かに金額の面から効果的か、効率的かという視点は計画事業評価にもないのですよね。あれは予算がありますから。

【部会長】

では他にもご意見があれば、後で全体会の場で言っていただきたいと思います。

よろしく申し上げます。お疲れ様でした。

<閉会>